



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第二八三号〜

秋分 しゅうぶん
九月二十三日

初潮

今年の十五夜は、九月二十四日。一年を通してこの月が最も澄んで美しいとされます。

月の満ち欠けによる陰暦いんれきは明治時代に太陽暦に改められて、現代の私たちからは遠のいた感じがしますが、陰暦八月十五日の月を愛でる「中秋の名月」ばかりは陰暦でなければなりません。

十五夜は、里芋やお団子を月に供えます。これは稲作が日本に伝わる前、主食であった里芋の収穫を感謝し、初物はつものを供えた農耕儀礼の名残といわれています。秋の夜空に煌々くわんくわんと輝く月に、収穫の感謝を捧げていたのですね。

そして、この日は、海も大潮となります。潮の干満は、月の引力により起こります。十五夜の月に照らされた潮が満々とさしてくるのです。この潮は「初潮はつしお」という季語になっています。

「初」とつく季語は、新年に多いにも関わらず、なぜ十五夜の潮を「初潮」と呼ぶのでしょうか。

一説に、陰暦八月（葉月）の葉月潮「はつきじお」の、「き」が落ちたとするのがあります。また、詩人の高橋睦郎氏は著作で、別の説を唱えています。

「古く秋を新年とする民間の習俗があった名残と考えることもできる。秋には初風、初嵐という季語もある。」と。

私は、その年に初めて収穫された初物を供えることにも関連するよう思いました。初物を供える頃に満ちてくる大潮だから、新たな潮という意味で初潮ではないかと。季語は長年かけて日本人に作りだされた季節の言葉です。そこには、まだまだ計り知れない意味もありそうです。今年の十五夜は、海辺で初潮とともに愛でようかと思っています。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 第24回 来る福招き猫まつり

9月29日は、「来る福」と縁起良く読めることから「招き猫の日」です。今年、「平成の招き猫集まれ！」平成最後の年に時代を物語るような招き猫が集まります。どうぞ会いにきてください。

と き／9月30日(日)まで 9:29～17:29 (催しによって異なる)

ところ／おかげ横丁一帯

※諸事情により、内容が一部変更または中止になる場合もございます。

● 招き猫現代作家展

招き猫は、江戸末期に日本で誕生し、現在では国内外で親しまれ個性あふれる作品として表現されるようになりました。そんな中から「吉兆招福亭」が選抜した招き猫作家15名の作品が揃います。

ところ／伊勢路名産味の館2階「大黒ホール」

● 吉兆招福鈴授与

地元の氏神様でお祓いを受けた縁起のいい福鈴を毎年絵柄の異なるポチ袋に入れて929個限定で配布します。

と き／9月29日(土) 9:29～

ところ／常夜燈前

● 残り福のおすそ分け

昔から「残り物には福がある」といいます。

招き猫の日のお祝いに小さな福のおすそ分けをします。

と き／9月29日(土) 16:29～

ところ／太鼓櫓

五十鈴塾

○ 究極の女神、アメノウズメ命

日本神話に登場する女神たち。なかでも最もお元気なのは、アメノウズメノミコト(天鈿女命)ではないでしょうか。天岩戸開きの場面では、岩戸へお隠れになった天照大神を招き出すための踊りを披露。そのため、芸能の神とされています。また、天孫降臨の場面では立ちはだかる猿田彦大神と対面し、道案内を交渉します。なかなかの女傑のようです。伊勢神宮とも関わりの深いこの女神の魅力を探りましょう。

と き／10月5日(金) 13:30～15:00

講師／千種 清美(文筆家)

参加料／一般1,300円 会員800円

場所／五十鈴塾右王舎

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 節気菓子

つきよ
月夜

こし餡の蒸し羊羹に栗を仕込み、秋たけなわの夜、月見に興じる楽しみを表しました。

はつもみじ
初紅葉

寒天の川面に羊羹の楓を流し、粒餡を巻きました。伊勢から黄色い楓の秋便りです。

はつかり
初雁

山芋を使った薯蕷生地で白餡を包み、雁の飛ぶ姿を焼印で表現しました。